

◆ワッハ上方の今後のあり方について

経過と現状

<経過>

- 戦略本部会議(平成21年7月23日)
 - ・財政再建プログラム(案)における「見直しの方向性＝「他の府有施設等に移転、規模縮小」(H20. 6)

<ワッハ上方が今後も果たすべき役割>

- 資料の収集・保存
 - 資料の活用(展示・ライブラリー)
 - レファレンスサービス
- ※「公演」「育成」は民に委ねる

→ 上記役割を踏まえ検討の結果、通天閣への移転方針を決定

■府の方針に対する吉本興業からの提案(平成21年12月)

- 平成23年度及び24年度は吉本興業が運営
- 府負担額は家賃を含み1億円
- 展示室の集客目標は8倍増の約40万人 等

→ 提案を受け入れて、現地存続へと方針転換(平成23・24年度は吉本興業による運営)

<現状>

■指定管理者による運営実績(平成23年度実績)

- 入館者数:目標入館者数40万人⇒約16万人(うち有料入館者数17,161人) *参考:平成21年度20,619人
- 運営費:府の負担額 1億円(事業者が別途、約7,600万円を負担)

展示をはじめ現在の運営について、府民の支持が得られたとは言えず、事業コストの観点からも、現行形態のままの現地存続は困難。

背景(文化振興会議、府議会、関係者の意見等)

<文化振興会議の意見>(平成24年11月16日)

(将来のあり方)

- ・資料の収集・保存及び展示、ライブラリーを含む活用の機能を総合的に発揮できるような、しかるべき施設への移転も視野に、検討を進めるべき
- ・その際、資料を寄贈・寄託いただいた府民や関係者の理解を得ることが重要。資料の活用については、大阪市はじめ市町村、大学、民間企業等との連携を検討していくべき

(当面のあり方)

- ・将来的な他施設等への移転の可能性があること、整理すべき現有資料を良好な保管環境のもとに置くことなどに鑑みて、当面はYES・NAMBAビル7階にある現行収蔵庫を軸としてレファレンスサービスも含めて再編するのが望ましい
- ・展示やライブラリーについても、同一箇所または他所での展開も含めて、効率的・効果的な方法を検討すべき

<府議会議論>

- ・公としての役割(資料の収集、保存、活用)を果たすため、様々な選択肢を検討すべき(平成24年9月議会)
- ・40万人を達成できなかった吉本興業にも協力して、今後のあり方を検討すべき(平成23年度決算特別委員会)
- ・平成21年に議論した公の果たすべき役割については、今後も維持していくべき。
- ・ワッハ上方の必要性については今後も議論(平成24年9月議会)
- ・ワッハ上方移転するとしても、コンセプトを大切にしたい(平成24年9月議会)

<放送局の意見>

- ・移転先の選択が「後退」ではなく、上方演芸文化の「さらなる発展・振興」につながるものであること
- ・ライブラリーは、公の役割として運営を行うのであれば、当面の措置として現地縮小も了解

<吉本興業(グループ)の対応>

- ・吉本興業グループは、総費用を圧縮した施設のあり方について、引き続き建設的な協議をしていく意向である。

今後の方針(案)

基本的な考え方

■平成21年戦略本部会議の決定に従って、資料の収集・保存・活用を公の役割として引続き実施

【上方演芸振興の意義(ワッハ上方の必要性)】

上方演芸は、大阪特有の「笑いの文化」であり、庶民文化そのもの。上方演芸の歴史を物語る上方演芸に関する資料を収集、保存、活用することは、貴重な財産を後世に引き継ぐというだけでなく、大阪の特色ある魅力を発信し、新しい「笑いの文化」を創造するうえでも意義がある。

■当面は現地において効率的な運営を行うとともに、さらなる資料等の活用を図る。

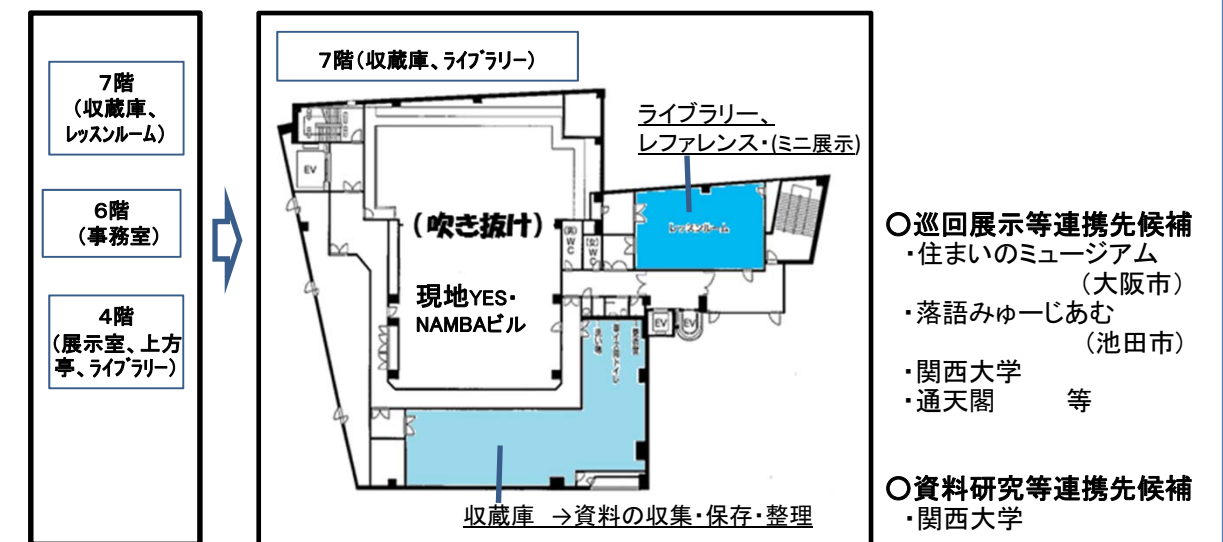
- ◆移転も含め様々な施設と調整、検討してきたが、現時点では現地縮小が最も効果的効率的である。
- ◆現地存続した場合は、温度湿度管理のできる収蔵庫を活用でき、コスト面でも優位性がある。ロケーションがワッハ上方のコンセプトに合致する。目標に達しなかったものの従前に比べ約3倍の集客があり、府民に一定定着している。
- ◆アウトリーチ的に府、市、民間等における様々な施設における展示や官学連携など、さらなる資料の活用を図る。

具体的な案

<当面のあり方>

■当面は、現地において、常設展示を縮小しより効率的な運営を行い、無料で利用に供するとともに、巡回展示や、大学との連携等による研究機能の充実など新たな展開を図り、2年間、この形で運営し、再評価する

- ◆当面(2年間)、吉本興業を指定管理者として実施(4・6・7階⇒7階に集約)
- ◆運営経費と原状回復費等コストについては、できる限りコストダウンできるよう吉本興業と協議



<将来のあり方>

■上記方針により対応しつつ、その状況や評価を見極め、将来的なワッハ上方のあり方について、しかるべき施設への移転も含めアーツカウンシルで検討

今後のスケジュール

平成25年 1月	戦略本部会議 指定管理者選定委員会規則等制定 指定管理者の選定(選定委員会の開催)
平成25年2月議会	設置条例の改正 予算案・指定管理者の指定の審議・議決
平成25年4月～	現地縮小のうえ指定管理者により運営